



SAVE THE FUTURE AWG MEDICAL MISSION

セイブ THE フューチャー AWG メディカルミッション メンバー会員ニュース

AWG治療 真実のストーリー&ヒストリー。

AWG TO NATURE PRESENTS **ARBITRARY WAVEFORM GENERATOR**
BY DR. MATSUURA 日本が世界に誇る革新的技術「AWG」

癌と診断されたらAWGネイチャーメンバーズクラブへ —— 癌患者・友の会 / 入会金(年会費 共3万円)

浜松の医学博士・松浦優之からの“命”に対するメッセージ。

MESSAGE FROM INVENTOR P02-03 / MISSION INCOMPLETE P04-05 / NEVER, NEVER, NEVER GIVE UP P06-07
THE STORY OF DR. MATSUURA, THE STORY OF AWG P08-09 / AWG THE PRINCIPLE AND FUNCTION P10-11
THE DOCTOR'S RECOMMENDATION P12-13 / AWG IN THE WORLD P14-15

足踏みしている暇はない、AWGで完治を目指せ！
松浦博士の癌を完治させるための研究。



世界最小の「素粒子」が最強の力で人と世界を救う。

We're team AWG

ARBITRARY WAVEFORM GENERATOR



AWG開発者 松浦優之

IOU大学総長 ハッケモルダール博士

グローバルピース大学学長

吉川博士夫人 吉川エリナ

ハワイ州立大学 名誉教授 吉川 宗男博士

松浦医学博士 秘書

こんにちは。浜松の松浦です。私もすっかり年をとりました。もう73歳です。ふり返ると、研究、研究また研究の人生でした。たくさんの素晴らしい人との出会いがありました。また同じくらいたくさんの人の裏切りにあってきました。たくさんの「魂が震えるような」研究成果がありました。そしてまた思いがけず同じくらいたくさんの理不尽な圧力を受け、たくさんの屈辱を味わってもしました。……73歳になった今、私はうれしかったことも悲しかったことも、感動したことも、悔しかったことも全てに対して「感謝」しています。

今にして思えば、若い頃は「世のため人のため」に学者として夢中で仕事をしてきたつもりでしたが、どこか野心的で挑戦的な部分があったのかもしれない。知らず知らずのうちに人を傷つけ、悩ましたかもしれない。そんな方々への「懺悔」や、仲間、家族、またこの国への「感謝」、そして何よりもこれからの地球を担っていく全ての子供たちへの「期待」の気持ちを込めて、今私ができること。それは、38年間、私の青春の全て、研究人生の全てを注ぎ込み完成させたこの「AWG」を1人でも多くの人に知っていただくことなのです。

「何だ、結局自慢話か……。」

そう思われても仕方ありません。だけどこの「AWG」、自分で言うのも何ですが、この20年間で驚くべき結果を残しているのです。

説得する気はありません。私は根っからの研究者ですから売り込むなんて大の苦手です。この地球上で、こんな事実があったこと。そして今も次々と奇跡が起きていること。そして、これから人類のために、この技術を封印してはならないこと。そんなことを、これからこの情報誌で定期的にお伝えしていきたいと思っています。学者の自慢話にならないように、自分を律しながらお伝えしていきます。

さあ、では、はじめましょうか。

AWGの世界へようこそ。

MISSION INCOMPLETE

1971年、私は弟を亡くしました。彼はその時、千葉大学医学部の4年生でした。病名は「白血病」。血液のガンです。
11歳の私の息子が、弟にかけた言葉を思い出します。「おじさん! 僕が医者になって救ってあげるから、それまでがんばれ!」
弟は言いました。「ごめんな。おじさん、それまでがんばれそうにないよ。」

夢と希望に満ちあふれた弟の人生を奪った「ガン」という不治の病。私はその時、自分の人生を賭けて闘う相手「ガン」に出会いました。
一人でも多くの人を救けようとしていた弟の遺志を継ぎ、それからは「ガンを治す」という大きすぎるテーマに全力を注ぐことになります。
あれから38年。目的の半分は達成されました。
達成したこと。それは完治率96%という「ガンを治す治療器」をつくり上げたこと。
そして未だ達成できない使命。それは全ての人をガンから救うこと。
神の配剤としか思えない素晴らしい治療器を授かりながら、まだ1万人しか救えていません。もっともっと救えるはずなのに……。

私の息子は「おじさん」との約束を果たし、医師となり、ハーバード大学病院に勤務しています。
一方、私にはまだまだやることが残っています。まだまだ、息子には負けられません。
もっともっと多くの方がガンの呪縛から解かれ、救われていきますように……。

生体内ウイルスを殺滅する新しい技術の研究。

■スーパー電子ワクチンの基礎

スーパー電子ワクチン投射の第一の特徴は、全くヒト生体細胞に悪影響を及ぼさないマイナスイオン帯電粒子である電子を、段階的にHz(ヘルツ)69種類を、低い数値のHzから高い数値のHzに変換・移行する事によって、感染性微生物と同様の偽抗原をT細胞に認識させて免疫応答を誘導し、免疫細胞から免疫を産生させることを目的として開発されたワクチン療法である。これら多種類のHzを段階的に15秒間の間隔をおいて3分間ずつ生体内に投射する事により抗原と同様の電子による偽作動を働かせる。この事により、T細胞が段階的に発生する各々異なるHzに反応しそのHzに合致した複数の免疫を産生させることを目的に開発された。この免疫により誘導された抗体は、特

に細胞外のプラスイオン帯電タンパク粒子で構成されている抗原(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫)を殺滅し、又、抗原・微生物などの産生するプラスイオン帯電の毒素や渗出物などをスーパー電子が分解して無毒化、中和することが判明した。AWGの抗体はウイルス・細菌・真菌・寄生虫などの感染によって産生された抗体と同様に、この抗体は生体内で抗原防御の働きを発揮する。

電子ワクチン投射によって誘導された細胞性免疫(T細胞、マクロファージ)は、特に細胞内細菌、ウイルス感染、真菌感染の防御にとっての要となる。

スーパー電子ワクチンとは、 10^{-12} ミクロン帯電粒子をヒト生体組織細胞内に投射させることによって、多重免疫を誘導、産生さ

せ、予防・治療の両面に作用させ健康を維持する方法である。この方法は、スーパー電子(PAT.P.)1~10,000ヘルツ間の69種類のヘルツ(Hz)を選択し、これらを組み合わせ低電圧から高電圧に段階的に電子波を発生させて、抗原(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫)に衝突させ、これを殺滅し、又スーパー電子がヘルパーT細胞を刺激し、免疫応答細胞を誘導して多重免疫を産生させる2つの効能を合わせ持つことを特徴とする、新しいワクチンである。

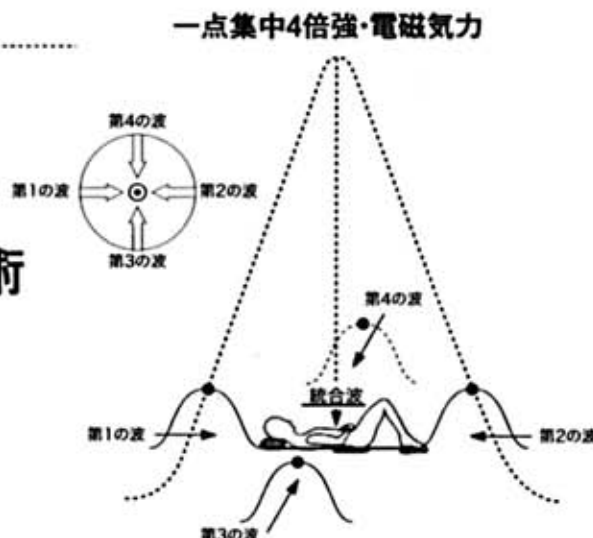
このワクチンの第一の特徴は、スーパー電子を用いてこれを偽抗原(ウイルスや細菌・真菌・寄生虫・その他弱毒産物を使用しないで)として、ヒト生体内に免疫を誘導、産生させることである。

■AWGの4つの弱い電磁気力

弱い4つの電磁波の統合波で
元凶を破壊・粉碎・殺滅する

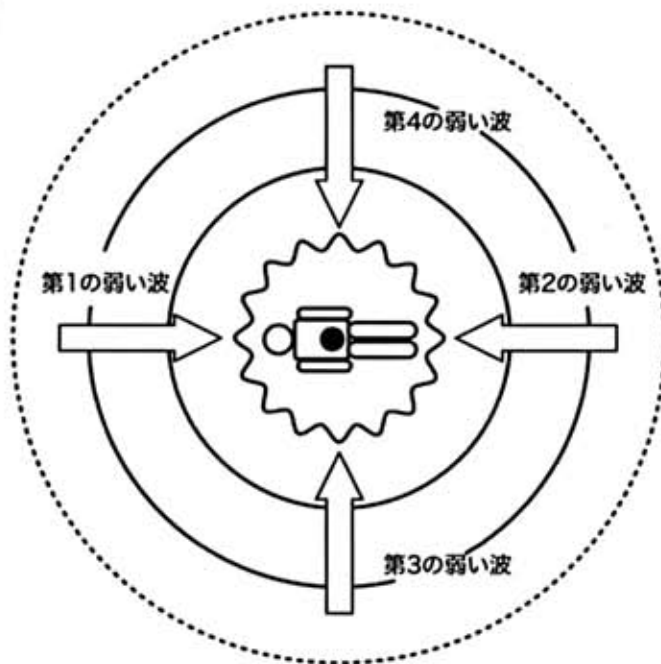
電子の クロス・ファイアー技術

4つの弱い力の統合力で強力な電磁場の結集を計り、全てのプラス帯電物質(病気の元凶)を破壊する。



一点集中・急所療法

弱い波の統合により、強力な1点集中の強い波が発生し、新しい治療技術を生み出した。(一点集中・急所療法) 第1の波・第2の波・第3の波・第4の波は、弱い電磁波で、放射線やラジオ波の様に強くないので、ヒト生体細胞を損傷したり、副作用や医療ミスもない。



■世界初の新しい原理

開頭手術をしないで頸動脈血を利用して
脳腫瘍を完治させる

AWG 頸動脈療法

国際特許・超自然素粒子療法

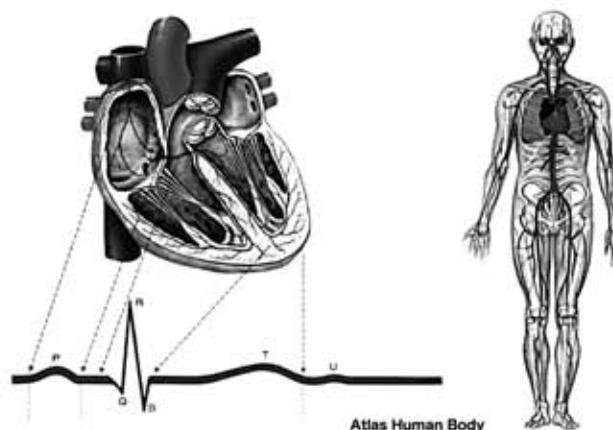
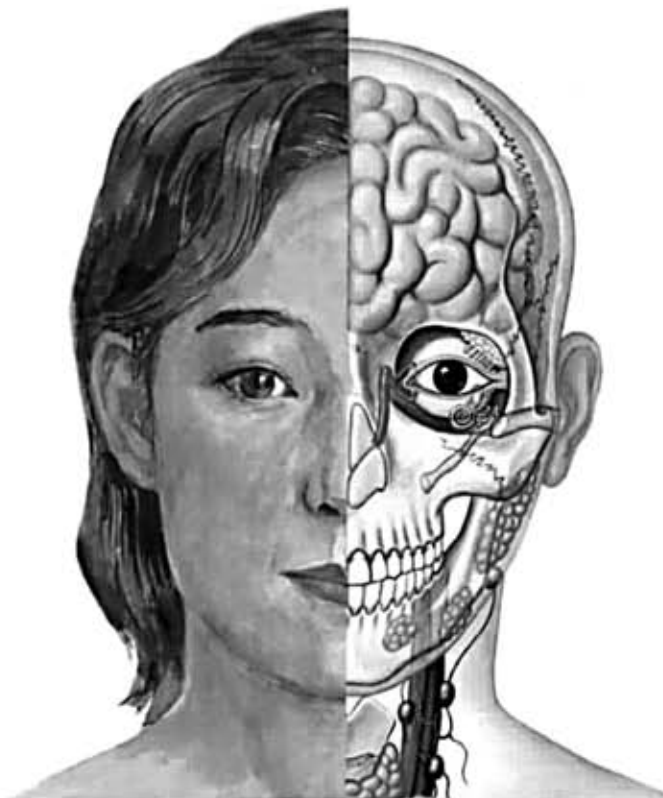
原因・直接療法・速効性・無痛療法
注射・投薬・手術等を必要としない
副作用・後遺症・医療ミス皆無

対象患者

- 脊髄小脳変性症
- 脊椎管狭窄症
- 脳腫瘍
- 脳動脈瘤
- 脳梗塞
- アルツハイマー
- 認知症
- 老人性痴呆症
- 目・鼻・耳の各疾病
- 口腔疾患
- 後頭部神経痛
- ホルモン・内分泌異常

…他

Atlas Human Body



Atlas Human Body

脳動脈瘤や脳腫瘍を素粒子で破壊する AWGバプテスマ療法

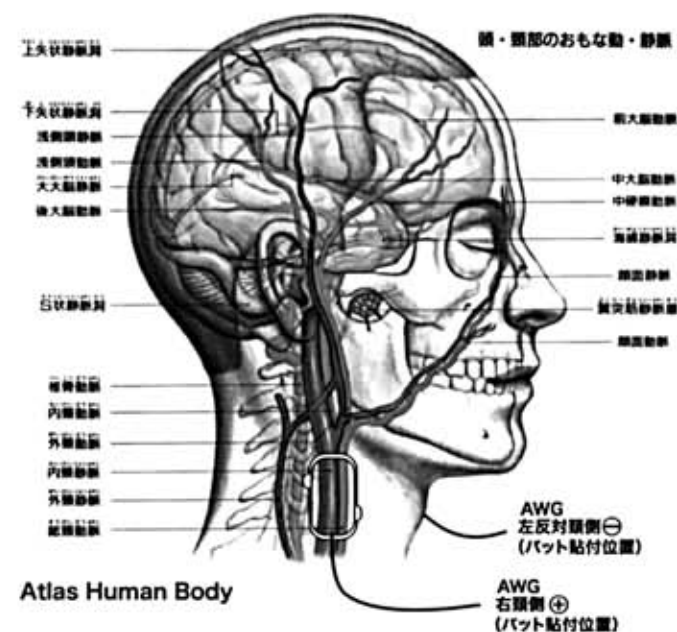
バプテスマ療法原理

心臓一点・急所療法

マイナス電荷還元血流で全身疾病を完治させる

コードNo. 参考例

- 脳・中枢神経全般 0069 (24分)
- 知能向上 0180 (24分)
- トラウマ・精神的外傷(ショック) 0316 (27分)
- アルツハイマー病、老人性痴呆 0030 (36分)
- 血漿リンパの浄化 0251 (9分)
- ウィルス殺滅 0324 (36分)
- EBウィルス 0115 (45分)
- 組織細胞の回復 0311 (39分)



Atlas Human Body

■29種類の癌

副腎皮質癌
(Adrenocortical cancer)
肛門癌
(Anal cancer)
胆管癌
(Biliary canal cancer)
膀胱癌
(Bladder cancer)
乳癌
(Breast cancer)
子宮頸癌
(Cervical cancer)
慢性リンパ球性白血病
(Chronic Lymphocytic Leukemia; CLL)
慢性骨髄性白血病
(Chronic Myelogenous Leukemia; CML)
大腸癌
(Colon cancer)
子宮内膜癌
(Endometrial cancer)
食道癌
(Esophageal cancer)
ユーイング腫瘍
(Ewing's cancer)
胆嚢癌
(Gall bladder cancer)
ホジキン病
(Hodgkin's disease)
下咽頭癌
(Hypopharyngeal cancer)
喉頭癌
(Laryngeal cancer)
口唇口腔癌
(Lip and Oral cancer)
肝臓癌
(Liver cancer)
非小細胞肺癌
(Lung cancer - non-small cell)

非ホジキンリンパ腫
(Lymphoma - Non-Hodgkin's)
黒色腫
(Melanoma)
中皮腫
(Mesothelioma)
多発性骨髄腫
(Multiple myeloma)
卵巣癌
(Ovarian cancer)
膵臓癌
(Pancreatic cancer)
前立腺癌
(Prostate cancer)
胃癌
(Stomach cancer)
睾丸癌
(Testicular cancer)
甲状腺癌
(Thyroid cancer)

■46種類の難病

ベーチェット病
多発性硬化症
重症筋無力症
全身性エリテマトーデス
スモン
再生不良性貧血
サルコイドーシス
筋萎縮性側索硬化症
強皮症
皮膚筋炎・多発性筋炎
特発性血小板減少性紫斑病
結節性動脈周囲炎
潰瘍性大腸炎
大動脈炎症候群
ビュルガー病
天疱瘡
脊髄小脳変性症
クローン病
難治性肝炎のうち劇症肝炎
悪性関節リウマチ
パーキンソン病
原発性アミロイドーシス
後縦靭帯骨化症
ハンチントン舞蹈病
ウイルス動脈輪閉塞症
ウェゲナー肉芽腫症
特発性拡張型(うっ血型)心筋症
シャドレーガー症候群
表皮水疱症按合部型及び栄養障害型
膿疱性乾癬

広範脊柱管狭窄症
原発性胆汁性肝硬変
重症急性膵炎
特発性大腸骨頭壊死症
混合性結合組織病
原発性免疫不全症候群
特発性間質性肺炎
網膜色素変性症
クロイツフェルト・ヤコブ病
原発性肺高血圧症
神経繊維腫症
亜急性硬化性全脳炎
バッド・キアリ症候群
特発性慢性肺血栓栓塞症(肺高血圧型)
ファブリー(Fabry)病
副腎白質ジストロフィ

NEVER, NEVER, NEVER GIVE UP

The doctor of the future will give to medicine, but will interest his patients in the care of the human body,
in diet, and in cause and prevention of disease.

— Thomas Edison (1847~1931)

「将来、医師は投薬をせずに、人間の骨格構造・栄養・病気の原因と予防の研究で、患者を治療に導くだろう——。」

こんな言葉を、多くの家電製品を発明した「発明王」トーマス・エジソンが残しています。

医学博士でもない、いわば電気の専門家である彼が残した言葉は、実に暗示的だと思うのです。

何故なら、難病、慢性重篤な疾病、各種感染症などの完治を実現しているこのAWG治療は、10mA、125Vという極微の電子の働きによるものだからです。

エジソンはひょっとしたら、この電子の偉大なる力に気が付いていたのかもしれませんが。

難病といえども、病気の原因はシンプルです。打つ手は残されているのです。あきらめたらそこで全てが終わってしまうかもしれないのです。

感染症を排除する新しい特許技術。

■スーパー電子ワクチンの特徴と作用

スーパー電子ワクチンは病原性を保持せず抗原性を有する理想的ワクチン

- ①小分子から形成される非生物ワクチンは、抗原性が弱いですがスーパー電子との併用によって抗原性を強めることが出来る。
- ②スーパー電子により、段階的に短時間のうちに重積的にゆっくり微生物・抗原が破壊されて強免疫を得られる。
- ③免疫系がスーパー電子によってさらされる時間が持続すると免疫応答細胞から重質免疫・多重免疫が分泌される作用を有する。
- ④ヒト生体内の抗体を損なわず、生理的機能を保持する。
- ⑤細胞傷害性リンパ球を阻止する。
- ⑥高親和性免疫応答を誘導する。
- ⑦選択的に免疫系に介入する能力を有する。
- ⑧種々の抗原・微生物及び合成物、分泌物を含む内在的なものを破壊し、免疫を向上させる。
- ⑨細菌由来の多数の大きな分子をスーパー電子刺激することにより、異なる重複する多重免疫が誘導される。

- ⑩スーパー電子の作用によって誘導される抗体の保持力を高め、抗体を重合させ(抗体性を強める)同様部分に組織細胞の活性を促す。
- ⑪細胞内炎症は、局所的にサイトカイン産生を誘導する。スーパー電子の投射はマクロファージの反応を補強し、T細胞活性化に必要な補助分子の発現量を増加させる。
- ⑫スーパー電子は、選択的にTh1やTh2の応答を誘導する様デザインされている。
- ⑬ウイルスに感染すると、CDNAが血球凝集素を筋肉内に産出し、ウイルスの蛋白質に特異的な抗原産生応答とCTL応答が導入される。このCDNA感染細胞をスーパー電子は切断破壊し抗体を誘導する。
- ⑭スーパー電子を用いたワクチンの開発は、製造コストの低価と貯蔵コスト等を低く押さえることができる。
- ⑮組換えDNA技術の使用方法は、特徴が明らかなワクシニア、ポリサルモネラなどの感染物を使用するが、これらの病原体のゲノム中にDNAを挿入し、ホストに対し免疫原性を有する標的機造にDNAがコードするものを発現する方法(こうすることにより、ホストに認識される様に抗原が提示される)等、複雑な工程を経なければならない欠点がある。スーパー電子ワクチンは以上の様な複雑な手法の製造過程を取る必要が全くない。
- ⑯スーパー電子ワクチンは、特異性(Th1と細胞傷害性Tリンパ球応答、弱毒化ワクチン)で観察された時の様に誘導出来、更に弱毒化ワクチンの様に感染症のあるものへの逆戻りの可

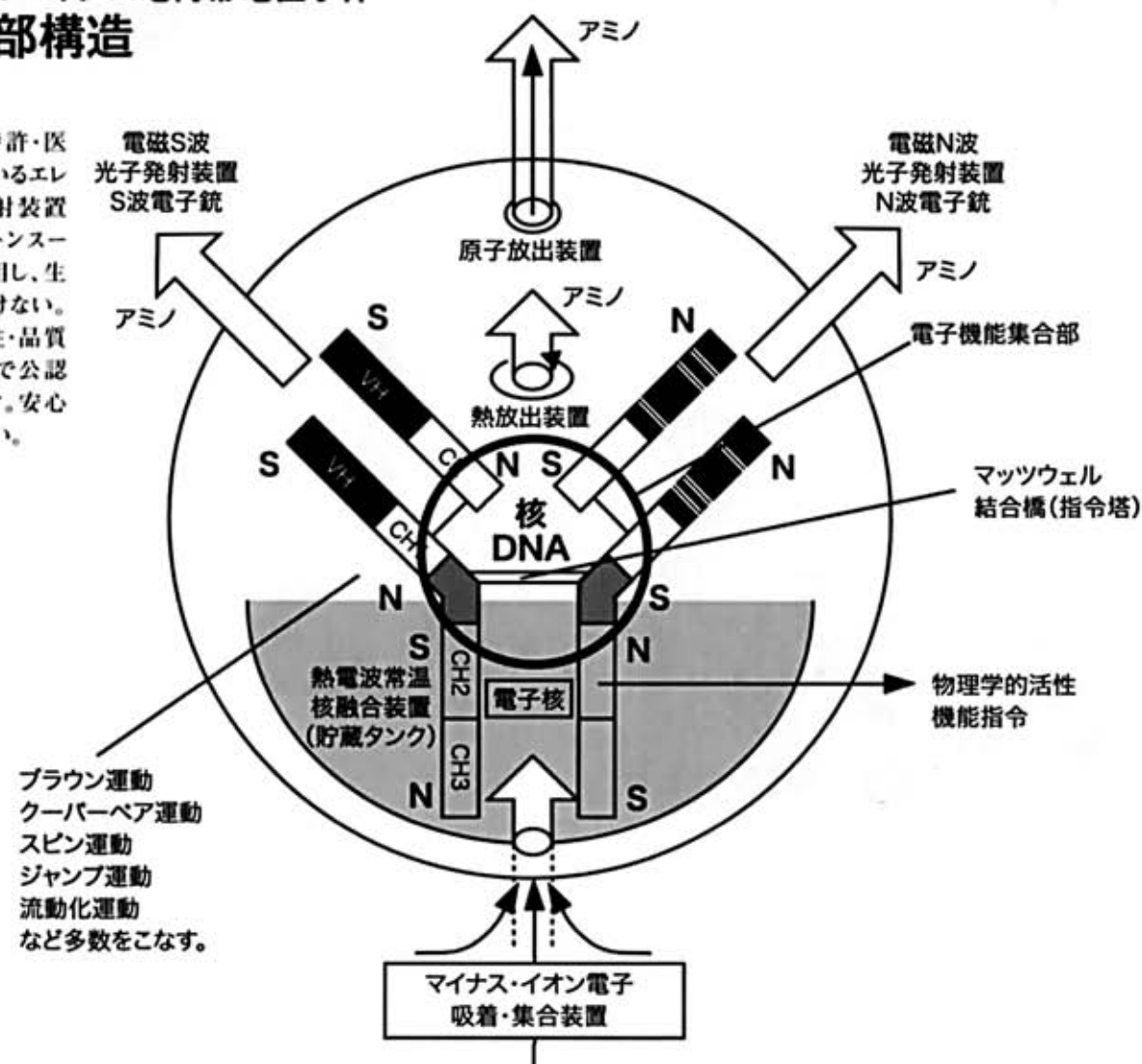
能性はない。

- ⑰分子ウイルス学と細菌学の進歩により、ワクチン開発に利用出来る多くを人の新しい標的物が発見されている。ウイルスと細菌の病因に関する多くの最近の研究により、「感染体を防御する為に必要な免疫系の構成因子が同定」された。これに加えて電子・陽子などの素粒子物理の分野に於ける量子医学の研究により、電子によってこれら初期の目的を完全に達する方法が究明されて来た。スーパー電子による方法は、安全性・有効性・品質に対し優位である。
- ⑱ヘルペス・ウイルスD糖タンパク質(glyD)の様な感染症を引き起こす微生物の一部によって防御に必要なCTLを刺激する方法がある。これにより、glyDの固定されたペプチドをホストに注射すると、エピトープに対するCTL応答が生じ、改変性形生ワクチンを産生させ、これを用いてワクチンを製造する方法があるが、スーパー電子ワクチンでは副作用なども含め、包括的に上記目的を達し、複雑な上記操作を行う必要のない簡便有効な優れた方法である。
- ⑲スーパー電子ワクチンは、サイトカインの優れた抗原提示細胞(APC)機能を刺激し、影響を与えAPCの機能を大幅に効率良くする。又、スーパー電子ワクチンはIFN γ とIL-4(クラスII分子)の発現量を増し、抗体提示能を増強する。この様なエフェクターサイトカインは、ワクチン接種に於いて有用なアジュバントとして考えられる。なぜなら、Th1応答が結核菌に対してより好まれる応答であるのに、ポリオに対しては、Th2応答が好まれる。しかし、Th1とTh2に免疫が片寄ることがあるが、スーパー電子ワクチンは、これらTh1とTh2の応答に適確に両方とも抗体誘導する優れた二面性を持っている。

■電子(素粒子)運動応用技術による治療

世界No.1のマイナス電荷帯電極小体 電子内部構造

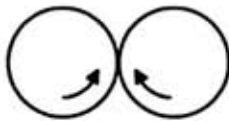
AWG(世界特許・医術)が使用しているエレクトロニクス発射装置は素粒子レプトンスーパー電子を使用し、生体細胞を傷つけない。安全性・有効性・品質を厚生労働省で公認された機器です。安心してご使用下さい。



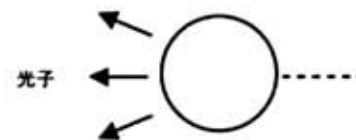
AWG電子はレプトンの仲間、素粒子の中で最小の物体。10⁻¹²ミクロンである。生体内で数々の精巧な極微の運動を行う。

■生体内に多重免疫を産生させる電子の特性と運動

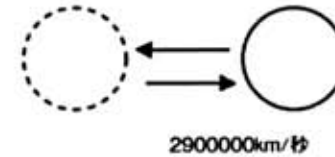
○クーバーベア運動



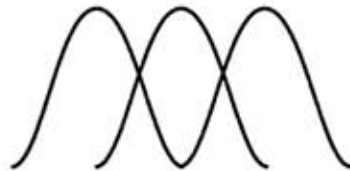
○光子放出しながら進行する能力を持つ



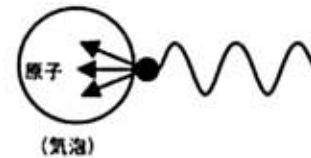
○電子は生体内をイオン化し超スピードで進行する



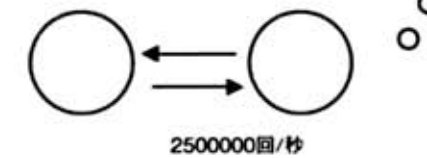
○反復波状結合運動



○電子は気泡に接すると原子を放出する能力を持つ



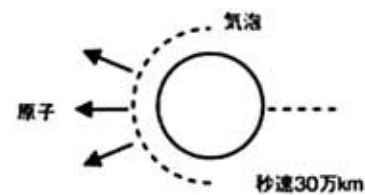
○超速ピストン・スピン回転運動



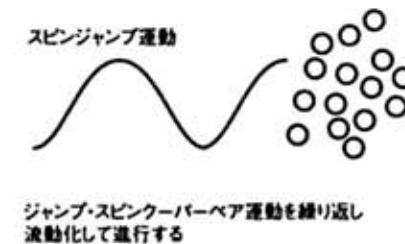
○超貫通・超能力運動



○電子は生体内を進行しながら光子を放出する能力を持つ



○超流動・超電導運動



ジャンプ・スピנקーパーベア運動を繰り返し流動化して進行する

■電子は熱を放出する 電子は原子核の軌道を上段軌道と下段軌道の間に電子を充電したり放熱放電したりして飛び交う。

The Story of Dr.Matsuura, The Story of AWG

「学者」である前に「人間」であり続けたDr.松浦ストーリー。



AWG療法開発への道のり

■はじめに。AWG療法を知って。

とりわけ、その一節は衝撃的であった。書名は「抗ガン剤で殺される」(船瀬俊介著・家伝社刊)。著者が厚生労働省の担当官へのインタビューのあらましを読んだとき、やるせない悲しさと憤りを抑えることはできなかった。行政責任を問う著者の追及の前に、担当官は暗黙のうちに抗ガン剤の猛毒性・発ガン性・無力性を認めて、こういうひとことまで発しているのである。

「抗ガン剤でガンが治るということは、たぶんほとんど無い」。日本人の三人にひとりにはガンで死んでいるのだという。家族や親戚、さらに親しい知りあいを含めれば、だれもが身近の親しい者をガンで亡くしていることになる。年配のひとなら闘病中の患者を見舞った体験もありなはずで、抗ガン剤による闘病がどれほど辛いものか、あらためていうまでもないだろう。そして、そのうちの多くのかたは病床の患者に向かい、それもこれももう一度元気になるためだ、辛いだろうが頑張れ、などと励ましの言葉を送った方も少なくないはずだ。しかし、抗ガン剤否定論者からすれば、それは毒薬が投与される場面を静観したまま、救いを差し伸べる患者の手を払いのけたことになる。彼らはガンと闘っていたのではなく、抗ガン剤に命を削られる苦痛と闘っていたのだ——。

かくしてガン治療の現状に関心を抱き、すこし探ってみようとした矢先、患者の免疫力を高める方向でガン克服の道を切り拓いた松浦優之博士の存在と、博士が25年かけてたどり着いたAWG療法について知った。深く知っていくほどに、なぜ博士のこと、AWG療法のことが、ガン治療の表舞台に登場していないのかと不思議に思った。この分野の歴史を、ほんのすこし追いかけてみただけで、研究との闘い、社会との闘いがあったことがうかがえた。先人たちの革命的な理論には、なによりもガンをはじめとする難病から、たくさんの方たちを生還させたという実績があることも知った。

いつか自分や身近な者がガンに侵されたとき、どう立ち向かうかの知識とするためにも、このAWG療法へとたどり着いた開発の歴史をたどってみたいと考えた。

■AWG療法以前。時代の先駆者たち。

血液の中には細胞よりも小さな、なんらかの微小体が存在しており、これが人間および動物の病気と深くかかわっているのではないか——。こういった提唱は19世紀にさかのぼって認められる。パスツールの宿敵であったアントワール・ペションは、発酵して

いる溶液の中に無数の小体(小発酵体)を発見、これをウイルスや細菌、真菌の発達したものではないかと考えた。オーストリアの思想家ルドルフ・シュタイナーは、悪性腫瘍は身体の全体的な病気であるとして、健康のカギを握るのは全身に流れる血流やリンパ液などの体液ではないかと訴えた。

これらの提唱は、やがて視認・実証というかたちで証明されることになる。1916年、血液中に小さな生命体を発見したドイツのギンター・エンダーソン。あるいは3万倍以上の拡大能力を持つ顕微鏡を開発して、生体や血液中に微小な有機体を発見したアメリカのロイアル・レイモンド・ライフと、そのパートナーであったジョン・クレインなどが挙げられている。

ライフは、特定の周波数の電磁波を照射することで病原菌を即座に殺せると提言して、実際にガン・結核・腸チフス・ハンセン病などでその効果を証明してみせた。フランスのジョルジュ・ラコフスキーも同様の効果を確認した。それ以前、医学及び生理学部門でノーベル賞を受賞したハンガリーのアルバート・セント・ジオルジが、生命の秘密は最終的には電子もしくは電気を帯びたその他の素粒子のレベルで発見されるだろうと説いていたが、この提言をライフは顕微鏡で視認することで実証してみせたのである。

またわが国においては、定説とされる骨髄造血説に疑問を呈し、健康と病気のシステムを明快に解析して、世界の権威ある学者から賛同と支持を得た千島喜久雄博士を輩出している。千島博士は、バクテリアやウイルスの自然発生を唱えた。そして、これらの学説をより明快に具体的に裏づけるかたちで、ガストン・ネサンが登場する。

■いずれAWG療法へと。 ネサンのソマチット理論と実績。

ガストン・ネサンは1924年フランス生まれ。生物学者、医師、顕微鏡研究者。生体を生きたまま鮮明に観察できる高性能の顕微鏡「ソマトスコープ」を開発したことで、ネサンは血液の中に、細胞よりもはるかに小さい生命体が存在することを確認した。ネサンはこれを「ソマチット」(小体)と名づけて観察を続けるうち、決定的な発見に至った。ソマチットは、みずからの状態に応じていくつかの段階に変化する。健康であれば3つの段階(ソマチット・胞子・二重胞子)に変化するだけだが、対象の生体に異常が生じると、ソマチットは上記の3段階から飛びだして新たに異常領域の13段階へと変容していくというのだ。ネサンは全16のプロセスをすべてつぎとめて、ソマチットの形態を見ればその人にどんな疾患が生じているかがわかるようになった。つまり、ガン患者のソマチットは常にある特定の形態を示している。そればかりか、疾患の発生

を18カ月前に予知・予測することを可能にしたというのだ。ネサンはこの研究成果を基盤に、ソマチットを健康な元の状態に戻すための薬剤として、クスノキの樹液から採取した天然カンファー(樟脳)を原料に開発。「714-X」と名づけられたこの免疫強化剤は、大勢の末期ガン患者やエイズ患者に使われて、その完治率は75%ともいわれた。

■電子照射機AWG誕生。

「無害だった細菌がときとして致死性の病原菌に変化することがある。その病原菌は特定の周波数の光(電磁波)で即座に殺すことができる」。ロイアル・レイモンド・ライフはこの理念を実証するかたちで、1934年には16人のガン患者を全員完治させ、その成果が世界で最も権威ある学術雑誌「サイエンス」や世界中の研究者を対象とした総合学術雑誌「ネチャー」に掲載された。松浦優之はライフの試みと研究成果をさらに発展させて、完治へと導く、より精度の高い絶対的な周波数を求めて研究に没頭した。国内外の医師、細菌学者、分子生物学者が松浦の研究を後押しした。そして、周波数と生命活動における研究を続けて25年の歳月を数え、10,000種の周波数の中から、生命体に画期的な作用をもたらす69種類の周波数を特定することに成功した。

松浦は浜松で「健康クラブ」を結成。その効果を確認するために開発し、約3,000人の協力者(会員)に使ってもらったのが電子照射機「AWG(Arbitrary Waveform Generator)」であった。「健康クラブ」の会員の中に余命一週間と宣告された末期ガンの患者がいた。ところがAWGを使って一週間後、彼は米屋の仕事に復帰していた。こういった事実が人々の口の端にのぼり、海外各国からもガン患者が訪れて、会員はどんどん膨れていった。そのとき、無料でAWGを貸し与えていたが、患者である会員のほうから、せめて実費に相当する3,000円くらいはカンパしようではないか、ということになって、穴を開けた段ボール箱が部屋の一隅に置かれることになったそう。かくして5,000人以上ものガンなど難病の患者を救うことになり、松浦は厚生労働省に医療治療機の申請をだし、世界138カ国に特許申請した。ところが1998年9月、松浦は医師法違反と薬事法違反の容疑をかけられる。300台近くのAWGと膨大な実験データや資料をすべて押収された。そのうち250台のAWGはチェルノブイリ原発事故で白血病に苦しむカザフスタンに送る予定になっていた。押収されたものはみな焼却廃棄処分された。

その後、国立浜松医科大学や富山県医科大学、韓国ハンソ大学付属病院、米国バシフィックウエスタン大学など国内外の大学の

QUANTUM XRROID QXCI

COMPUTERIZED
BIO-SONAN & BIO-FEEDBACK

MEDICINE FOR THE 21ST CENTURY

2001 カナダ・エノモントン
ロイヤル・レイモンド世界学術会議
松浦博士 日本国代表として出席。

写真左:ニュージーランド代表
写真中央:日本代表 松浦優之
写真右:オーストラリア代表

We're team **AWG**
ARBITRARY WAVEFORM GENERATOR

研究機関で試験された結果、その確かな有効性が立証され、厚生労働省認可の医療機器として認可された。同時に、アメリカ、カナダ、EU、ロシア、中国、韓国、香港など12カ国で特許を取得した。

■AWGは免疫力と自然治癒力を高める。

松浦の到達した治療技術と、その結晶となって開発された電子照射機AWGには、ガストン・ネサンのソマチット理論がベースにある。要約すれば、松浦の確認したことは以下のようなものだ。・ヒトの生体内には100兆個ほどのソマチットがあり、生体内の微小コンデンサーとして働いている。

・ソマチットは16個の触手(電子受容体)を伸ばして絶えず電子を要求している。そのソマチットは人体内環境に異変が起きるとさまざまな形に変化していく。

・ソマチットの餌は電子である。AWGで特定の周波数の電磁波を照射すると、すべてのソマチットが健康状態の形に戻る。

AWGの実効性について語ればかぎらないが、たとえば大腸ガンに侵されたロス在住の国際弁護士ヘンリー・コウダ氏。氏はどの病院からも手術は不可能、余命1カ月と宣告され、そこで松浦のことを知って浜松を訪れた。そして2カ月後、帰国したアメリカの病院で完治していることが診断された。

これについて松浦はこう語る。

「特定の周波数を持つマイナスイオンの電子波動を照射すると、ガン細胞が破壊的な共振作用を引き起こして自滅する。マイナスイオンの電子波動によって病的細胞が次々と破壊されていくことによって、免疫力が一気に高まり、そこから自然治癒力が働き始めます。ですから、病的な症状から回復させるのは、あくまでもそのひと自身が持つ自然治癒力。AWGはその治癒力の威力が発揮されるための条件を作りだすにすぎません」

現代医学では抗ガン剤や放射線で病んだ細胞を殺そうとするが、それでは人体の免疫力にダメージを与えてしまう。しかしながらAWGでは、マイナスイオン電子波動を作用させることでガン細胞を自滅・自壊へと導き、患者本人の免疫力を高めて、ガンと免疫力の力関係を一気に逆転させてしまう。

■革命的な学説が封印された理由と 真実を求めて。

ソマチットを発見したガストン・ネサンの研究は当然ノーベル賞に値する。ソマチット自体も暗視野顕微鏡を使えば簡単に確認できるが、しかし医学会はこれを無視、黙殺を続けてきた。それどころか、ネサンは理論だけにとどまらず、画期的な治療法を開発し

て成功事例を増やしていった。これに対して、彼の母国のフランス医学会は牙を剥いた。不当な理由で2度にわたって法廷に呼びだされ、罰金、研究室の閉鎖、器具類も没収された。はてはコルシカ島に移らざるをえなくなった。ところがコルシカ移住からほんの1週間も過ぎた頃、何百人もの患者が追いかけるようにしてネサンのもとに集まってきた。ふたたびフランスの医師会は怒りをあらわにして取り調べ裁判を開始。これを察してネサンはカナダへ飛び立つが、その手助けをしたのがフランス最高警察機関の高官であった。高官の妻は病院で余命1週間と宣告された末期のガンに侵されたが、ネサンによって命を救われていたのである。カナダでは、ネサンはスチュアート財団の支援を得て研究を続けることができた。だが、ここでもやがて医師会の圧力が彼に襲いかかる。1989年、巧妙なワナにかかってついに逮捕され、歴史に残る「ガストン・ネサン裁判」の開始となる。審問がおこなわれた日、裁判所の玄関に100人以上のデモ隊が集まり、連行されるネサンに喝采を送った。デモへの参加者はネサンによってガンなどの難病から救われたひとたちで、世界中から集まった彼らは記者会見を開き、ネサンに救われた体験を語って、彼の正義を訴えた。ネサンを支援する電話が殺到し、法廷でもネサンを擁護する証言があいついだ。彼によって奇跡的に命を救われたひとたちが、今度はネサンの真実を伝えることで、彼の無罪を勝ち取ったのである。

こうした圧力を受けた研究者はひとりネサンにかぎらなかった。独自に開発した顕微鏡で血液の中に微小な有機体を発見したロイアル・レイモンド・ライフは研究活動を脅かされ、地下に潜っている。そのパートナーのジョン・クレインは投獄され、資料類や記録は消えて、顕微鏡は破壊された。松浦優之も警察の捜索を受け、積み重ねてきた貴重な研究成果と、白血病に苦しむひとたちのためにカザフスタンへ輸送の予定であったものも含め、電子照射機AWG300台近くが押収され、ふたたび松浦のもとに戻ってくることはなかった。

しかし、それにしても、ガン治療はあいかわらず「切る・殺す・焼く」に終始している。ガストン・ネサンという名前も、ソマチットという微小な生命体のことも、また「714-X」という画期的な薬剤、そしてこの薬剤が大勢のひとたちを完治させたという話も……。そして今日、会員5,000名を数えるAWG療養が一般のひとたちのもとに届いてこないのは封殺されているからだ。

AWGを知るほどに、その理由を考えることのない時代がやがて到来するだろう、到来しなければならないと思うのだ。

参考文献

「ガン呪縛を解く」稲田芳弘著・Eco-クリエイティブ発行

history

医学博士 松浦優之
VMD, OMD, HSD, CMD, Ph.D.

- 1936年 ■ 日本国静岡県島田市に生まれる。
- 1959年 ■ 麻布獣医学部 獣医学部卒業。
カナダゲルフ獣医科大学留学。
- 1975年 ■ 当時世界最大のバイオテクノロジー会社、シーメック・カナダ社・受精卵移植・クローン技術会社のモダン・オノ・トランスプラント社・OLD-CROFT社にて最先端クローン生産技術修得。
- 1978年 ■ シーメックス・カナダ社 極東エージェンツ(総責任者)に就任。
シーメックスジャパン設立。

WESTERN ONTARIO プリーディングサービス
ABC プリーディングサービス
ブリティッシュコロンビア プリーディングサービス
UNITED プリーディングサービス
N・B・C・A プリーディングサービス
WESTERN プリーディングサービス
N・S・A プリーディングサービス
QUWBEC プリーディングサービス
EASTERN プリーディングサービス

以上9社の世界的なバイオテクノロジー会社と、精子・卵子・凍結精子・クローン技術・生体細胞永久保存技術等について技術提携。

韓国・朴大統領の要請によって忠清南道において上記技術応用。

現在、多数の特許開発を行い、波動治療器AWG(生体内からスーパーエレクトロンを体内に投射しウィルス[SARS、HIV、癌、インフルエンザ、炭疽等]及び細菌・真菌・寄生虫の殺滅や遺伝子疾患・カルシウムパラドクスの治療など、400種類の疾病に有効)の研究開発に専念している。

○AWG世界特許世界138ヶ国特許出願
米国・中国・ロシア・EA等12ヶ国特許取得

略歴

GLOBAL PEACE 大学 名誉教授
HANSEO 大学 名誉教授
EIBUN 教育財団 名誉理事
USA ハワイノートル大学 名誉医学博士
IOU 世界平和賞受賞

現在に至る

AWG。その原理。——コペルニクスの発想の転換が世界を救う。

病気が完治出来ないのは何故か。それは病気の本当の原因がわからないから。

■ウィルスの猛威。

現代医学の粋を集めて研究開発されてきた抗生物質の治療が、ウィルスの耐性化によって、その効果がなくなり、世界中に「ウィルス・バクテリア」「スーパー病原菌」が蔓延し、猛威をふるい始めています。世界30か国37ヶ所の医学研究所で、ウィルス・バクテリアについて疫学的研究を行っていますが、完全に制圧したと伝えられた腸チフスも、46%が抗生物質に対する耐性ができ、今では医師も手がつけられない状態です。簡単な治療効果で完治していたはずの淋病、赤痢も、抗生物質の耐性菌が猛烈な勢いで増殖し、コレラ菌に至っては、実に90%以上が耐性を持ったものだと言われています。WHO(世界保健機構)は「21世紀は人類とウィルスの戦いになる」と宣言しています。

■抗生物質に代わる新しい方法。

医学に携わる科学者・薬学者・生物学者・細菌学者たちは、ウィルスを殺滅するために、この100年間、血と汗の戦いを反復してきました。しかし今、人類はどんな薬剤を開発してもウィルス・バクテリアの反復する執拗な挑戦の耐性化に勝てないことを悟ったのです。今まで自然科学の一つである物理学の分野は、医学の分野では重要視されず、役立つものとしては受け取られてきませんでした。しかし、私どもは自然界に存在する物で、人体細胞組織を傷つけない全く新しい手だてによって、この問題を解決しようと考えました。そして人類が巨額の費用を掛けて戦い続けてきた、ウィルスと人類との戦いに終止符を打つための偉大な力が、エレクトロン(電子)の中に秘められていることを発見したのです。これは物理学の理論に基づき、生体組織細胞を傷つけずにウィルスだけを殺滅するまったく新しい治療方法なのです。

■エレクトロニクスでウィルスを殺滅する。

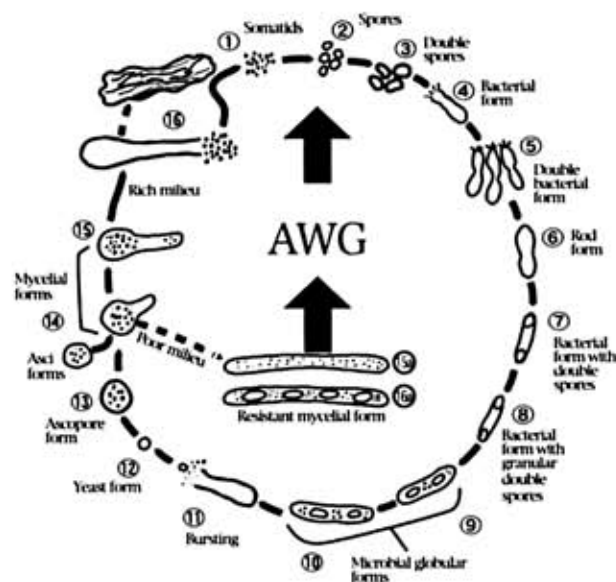
人体細胞は原子核と電子からできていますが、特に電子が一番取り出しやすい究極の素粒子です。そしてこの電子こそ人類に最大の貢献をなす偉大な究極の素粒子だと考えたのです。私どもは量子理論の物理的方法により、エレクトロン(電子)をコントロールしてウィルスの膠質膜(クリスタルゴブレット)をたたき、命中確率の高いウィルス殺菌方法を研究開発してきました。これは耐性菌を絶対に作らない、作らせない、新しい素粒子による殺菌法なのです。この方法は、薬物を使用した従来の殺菌法に比べて、自然界の奥深さと不思議さ、力強さを感じさせる、生体に優しい理想的ウィルス・バクテリアの殺滅殺菌方法なのです。

■癌を完治させるための研究。

人体には60兆個から100兆個のソマチットという微小コンデンサー(充電器)が存在し、このソマチットは電子をエサとし、16個の触手を伸ばして電子を要求しています。このソマチットが完全充電している時は、細胞はウィルスやバクテリア等のいかなる疫病にも絶対に犯されないとされています。ソマチットの3個の触手から電子が失われると、ウィルスが細胞内に侵入して感染が起こり、16個の触手から電子が100%奪われると細胞が死滅すると言われています。このソマチット充電率が体内の生体電流をコントロールしています。この生体電流によって脳幹からヒト生体の生理的作用の全指令が全身に指揮されています。脳波・心電図・筋電図などの測定はこの生体電流を原理に取り込んで診断装置として設計したものです。ドライブしていて、子供が急に道路に飛び出し「あぶない」と足がブレーキペダルを踏む反射運動や、虫が目の前に飛び込む瞬間のまぶたの閉鎖運動や、高速でボールが飛んできたとき瞬時に止まれる高速反射運動や、ジョギング時に心臓と呼吸が連動して働く副交感神経等のさまざまな働きが生体電流によって発生する現象です。この正常な生体電流に異常が発生し、生理作用が狂い始めると、生体内には種々のトラブルが発生し、生理作用が狂い、疾病の発生源となります。AWGはこれらヒト生体内に発生した異常な

生体電流をシンクロさせたり、共振・共鳴させたりして超物理的・量子作用によって異常細胞を矯正し、正常な生理作用に引き戻す働きをします。また、この量子の医学療法によって脳幹を刺激し、 α 波の分泌、組織細胞の活性、免疫の向上、 β エンドフィン(脳内ホルモン)・オキシトシンホルモン・セロトニン・メラトニン・ドーパミン等の分泌液を促して生理作用を円滑にして完全なる健康を呼び戻す作用をします。

AWGは上記生体電子の波動をベースに開発した治療器で安全性・有効性・品質等のクオリティ世界一を目指して開発された世界初の特許製品です。日本厚生労働省から医療機器として認可され、現在世界21ヶ国、100万人以上の人々が治療を行い、臨床医師から癌腫・肉腫・膠原病・重症筋無力症・劇症肝炎・膿瘍・動脈瘤・リウマチ・糖尿病・トラウマ等の難病の方々にも顕著な結果が報告されています。本水ぐ安心してご使用下さいようお願い申し上げます。



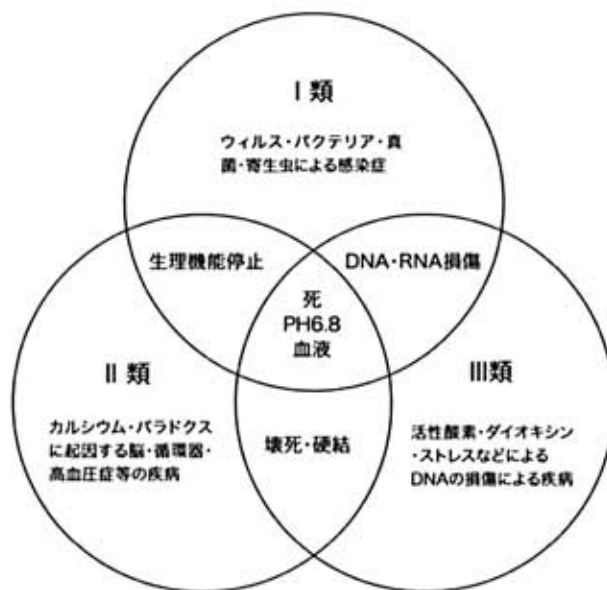
■AWG電子とソマチット

ソマチットは電子をエサとして活動する生体内有機体である。このソマチットは各人とも、指紋のごとく異なり、5万レグの放射線を浴びても死滅せず、人が死に火葬場で焼かれても灰の中で生き続け、土葬しても身体が朽ち果てても、何億年も上の中で存在する。今までの医学では、人体の最小単位は単細胞と言われてきたが、ソマチットは更に小さい生物である。病気になると、ソマチットは病気の種類によって種々な形態変化をするが、AWGを作用させるとソマチットはすべて、正常で健康な状態の活動・運動を活発に行うようになる。

AWGの電子は、生体内100兆個のソマチット(細胞内・微小コンデンサー)の受容体を充電させ、累積して効果を持続し、自然治癒力を高めます。注射をしない・投薬しない・手術もしない、今までにないまったく新しい世界特許技術です。

■松浦博士がつきとめた全疾患の三大要因

下記に示す疾病の三大原因は松浦博士らが突きとめた疾病の分類であり、これらはすべてプラスイオン帯電物質で形成されている。これらの帯電物質は、



I類:ウイルス・バクテリア・真菌・寄生虫の膠質膜を形成しているタンパク粒子(プラスイオン帯電物質)

II類:DNA・RNA一鎖及び二鎖の欠損部にチミン2量体が結合し、その上部にヘモグロビン鉄(ミトコンドリア内に3個の鉄の結晶が生じ)Fe⁺(1価鉄)が並列する(プラスイオン帯電物質)

III類:カルシウムパラドクスによって生ずる骨粗鬆症から抜け出たカルシウム、プラスイオン帯電物の組織細胞体積・結着によって発生する疾病(アルツハイマー・心筋梗塞・リウマチ・関節炎・筋肉痛)等(プラスイオン帯電物質)

AWGは、これらのI類・II類・III類のプラスイオン帯電物質を世界最強のマイナスイオン電子(マイナスイオン帯電世界最小粒子)で破壊・分解・粉砕させ、これらの全疾患の元凶を殺滅するよう開発設計され、世界特許を取得しています。

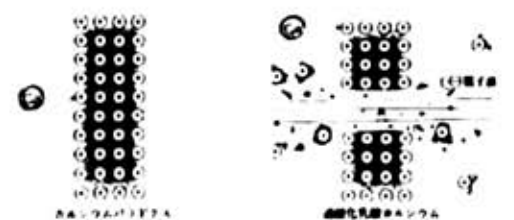
■全疾患の三大原因を破壊する耐性菌を自らない物理療法



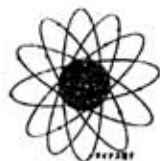
■ウイルス・細菌・真菌・寄生虫のコア(プラスイオン)を破壊する



■DNA・RNA一鎖・二鎖損傷部へヘモグロビン鉄(プラスイオン)部分を破壊する



■カルシウム・パラドクス(骨粗鬆症)から抜け出たカルシウム付着部分(プラスイオン)を破壊する



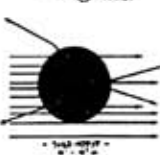
イオン化したマイナス電子は体内に侵入したウイルス・バクテリア・真菌・寄生虫のコアを破壊しこれを殺滅する。損傷DNA・RNA一鎖二鎖をアポトーシス(細胞死)させる。また、カルシウム・パラドクスによって骨(骨粗鬆症)から抜け出たカルシウムの代謝蓄積物を破壊し体外へ排出する働きを有する。



電子は細胞・血球中に潜む世界最小のウイルスであるHIVまで30万kmのスピードで衝突し、これを破壊する。また決して耐性菌を作らせない



AWG電子は毎秒625万兆個の電子を生体内に発射し、治療磁場と不感磁場の間を毎秒120万回キャッチボールするように設計されています。驚くことに、この電子は横の移動のみではなく、縦の運動を毎秒1万回行い、ヒト生体内の全ての病的因子(プラスイオン帯電タンパク粒子及び過酸化乳酸カルシウム)等を破壊し、体外に排出する。また、この電子は脳幹を刺激し各種ホルモンの分泌や免疫向上、血漿リンパの浄化、組織細胞の活性・再生等に寄与することが判明している。



電子がウイルス・バクテリアを攻撃している模式図。電子はウイルス・バクテリアのおよそ100万分の1以下で、世界で最も強力なマイナスイオン帯電粒子です。

AWG。その機能。—— 神秘なる量子物理学の結晶が人を救う。

原因直接効果・副作用なし・医療ミスなし・無痛・速効性・持続効果

■AWGは無痛でウィルス・バクテリア・寄生虫の コアを破壊する

AWGのソフトエレクトロン(電子)は、人体内において、毎秒30万Kmの超スピードで患部を貫通し、膠質膜(クリスタルゴブレット)で被われているウィルス・バクテリア・寄生虫に衝突し、これのみを破壊・殺滅し生体細胞を傷つけず、病原菌を根本から排除します。AWGの治療前に服用する炭酸水素ナトリウムは、血中内で破壊された物質と融合し、これらの毒素(TOXIN)を中和し、炭酸カルシウムに変化させ、尿と汗として体外に排出します。

■AWGは自律神経の機能を改善促進する

ソフトエレクトロン(電子)を生体に投射する場合のポイントは、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎と、椎骨椎間など、神経支が集中している箇所が特に有効です。頸・背・腰・仙椎の椎管部から自律神経が分岐しているので、その部分にソフトエレクトロン(電子)のマイクロ波を投射することにより、痛み・炎症・腫脹などが即改善され、良好な効果が期待できます。

■AWGは生体組織細胞の改善を行う

内臓・筋肉などに疾患がある場合、ウィルス・バクテリアに感染した患部組織には、リンパ液や組織液などの電解水溶液が浸潤し、ほかの健康細胞組織よりソフトエレクトロン(電子)の伝導率が特に良くなっています。AWGのソフトエレクトロン(電子)は、伝導率のよりよい道を通るので、結果的に、ウィルス・バクテリアの感染組織部を好んで通過することになり、そこに感染しているウィルス・バクテリアを集中的に攻撃して、これを破壊・殺滅することになります。また感染部の組織液は、特に癌などの場合、水H₂Oクラスターは、汚水となって細胞内に貯留しており、巨大なH₂Oクラスターを形成している場合が多く、ソフトエレクトロン(電子)は、このH₂Oクラスターなども同時破壊してゆき細胞内組織液の循環をよくするのです。特に癌細胞の場合、AWGを投射すると、急激に癌の腫瘍が小さくなるのは前記の理由によるものと考察されます。

■AWGは酸性体質を即弱アルカリ体質化する

人体細胞は約60兆個の細胞で構成され、個々の細胞は独自の生命活動を営んでいます。健康な細胞が活動するためには、酸素と栄養素を十分に含んだ、弱アルカリ性の血液を、全身の毛細血管のすみずみまで送らなければなりません。しかし人間は病気になる、血液が直ちに酸性に傾き、さらに重篤な慢性病になると血液は酸性化してゲル状になり、病状が進行悪化し、疾病組織細胞のH₂Oクラスターは巨大化し、組織細胞内に貯留するようになります。AWGはこのような症状に対し、特殊にプログラムした複合周波数(Hz)を全身に投射することによって、錆びついた脾臓のランゲルハンスのイオンチャンネルを作動させ、インシュリンを分泌させて、脾臓のグリコーゲンを全身に放出させます。そして全身の血液をわずか39分間で、弱アルカリ性へと変換させることができます。

■AWGは生体内の乳酸カルシウムの 結晶・付着老廃物を粉碎する

病気の原因となるウィルス・バクテリアをはじめ、病的組織細胞、病的細胞間組織および血中カルシウム、トリグリセリド、コレステロール、過酸化脂質、活性酸素によって生成された付着老廃物などは、超音波診断機などの数100分の1～数10分の1の超微振動によってふり落とされ、電子によって粉碎されます。また酸化及び結晶化された乳酸カルシウムなどは、電子による血管の収縮弛緩の反復運動及び組織細胞の振動によってふり落とされ、粉碎します。そして施術前に服用した炭酸水素ナトリウムで溶解されて、炭酸カルシウムとなって汗や尿と一緒に体外に排出されます。私どもはそれを毒素(TOXIN)と呼んでいます。これは身体内部への強烈なエレクトロン(電子)の貫通効果と、超音波の数10分の1の超微振動の相乗効果によるものなのです。

■AWGは生体免疫力を一気に増大させる。

AWGの厳選されたソフトエレクトロンの作用により、ウィルス・バクテリ

アは直接攻撃され、膠質膜(クリスタルゴブレット)が破壊され、生体内で殺滅されると、免疫(マクロファージ・リンパ球・R細胞・T細胞・NK[ナチュラルキラー]細胞及びこれらの放出物)は急激に増大します。互いに拮抗している状態にあったウィルスと免疫は、シーソー原理と同様、ウィルスの殺滅によって免疫力が加速的に一気に急上昇し、病気は猛烈な勢いで快方に向かうことになるのです。

■AWGは全身の内分泌線を刺激し ホルモン分泌を円滑にする

AWGは脳幹を刺激し、α波の分泌・βエンドルフィン・オキシトシン・ホルモン・セロトニン・メラトニン・ドーパミン等の分泌を促して生理作用を円滑にします。

■AWGは全神経経路の深部に 強烈なマイクロのマイナス波動刺激を与える

AWGのソフトエレクトロン(電子)を生体に投射すると、良導体である生体の中でも特に伝導率の高い、全身の経絡(ツボ)や血管・神経・リンパ等を、ソフトエレクトロンは毎秒30万Kmの超速で、治療電極と不図電極間をピストン反復し波動刺激します。そして生体組織及び経絡のより深い部分を、正確にくまなく貫通し、このマイクロ振動によって、全身の筋肉・神経・リンパ経路等に大きな治療効果をもたらすのです。

■AWGは脳内アルファ波を分泌させ 病的生体細胞を蘇生させる

脳神経細胞・自律神経・内分泌腺などは、ソフトエレクトロン(電子)の超微振動(マイクロ振動)によって、脳幹を刺激し大脳皮質・脳下垂体下部(下垂体前葉・下垂体中葉・下垂体後葉)・松果体から神経伝達物質が放出され、オキシトシン・ホルモンなどの分泌が盛んに行われるようになり、電子の強マイナスイオン作用により脳細胞からα波の分泌が行われるようになります。これによってメラトニンの分

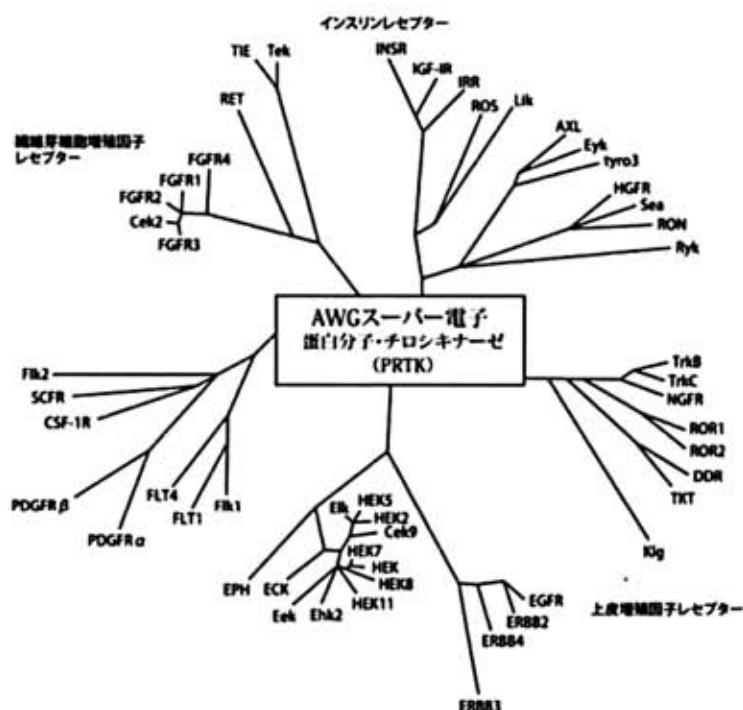
泌も平行分泌され、よく眠れるようになり、また、オキシトシンホルモンの分泌も良くなり、生体細胞の若さを維持します。そして生体に痛みが発したときは、脳幹からモルヒネの数百倍のβエンドルフィン分泌も行われ、痛みを緩和する働きも行います。

■AWGのマイナスイオンが生体を活性・蘇生・再生する

治療電極と不図電極間に印加されるソフトエレクトロン(電子)を人体に通過させることにより、12V、20mA、1~10,000Hzのソフトエレクトロンが作用し、人体細胞に全く害を与えることなく、生体細胞を活性化させることができます。これは血液中のナトリウム及びカルシウムのイオン化率が増加し、この作用により細胞組織が強化されるためです。またマイナスイオンは、免疫力を高める効果もあります。生体細胞に貯留した老廃物・ウイルスなどは、ソフトエレクトロンによって破壊され、組織細胞外にこれらの破壊産物が毒素(TOXIN)として排出されます。炭酸水素ナトリウムは、これら毒素(TOXIN)や炎症産物を炭酸カルシウムとして、汗や尿と一緒に速効的に体外に排出します。

■AWGは生体細胞内のH₂Oクラスターを破壊・消滅・粉碎させる

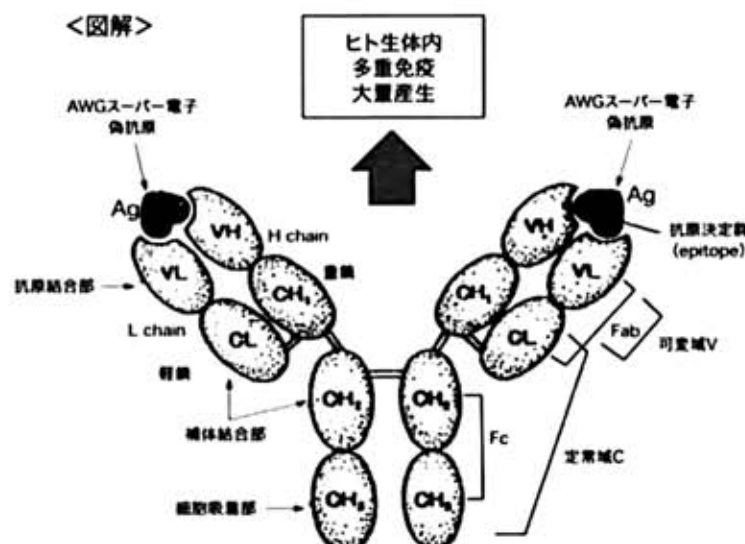
人体が癌などの重篤な慢性病に罹った場合、組織細胞内のH₂Oクラスターは細胞核内のソマチット充電率低下と共に徐々にふくれあがります。これにAWGのソフトエレクトロンを投射すると、H₂Oクラスターは即分解されエレクトロンの波動の衝突と貫通によって破壊細分化されます。癌腫などは肉眼で見ている間に縮小していく様子がわかることがあります。またソフトエレクトロンはH₂OのHとOの間の電子の鎖を太く強くします。病人や老人はこの電子の鎖が徐々に細くなり、その為体の神経伝達がうまくいかず、老化したり弱体化したりしていきます。AWGのソフトエレクトロン(電子)は、生体の85%を占める水分(H₂O)が不足し、弱体化した生体組織細胞内のHとOの間の鎖を太くし、細胞核内充電率を高めます。そして悪化した症状を前記総合作用及び相乗作用によって、軽減してゆきます。そして、ソフトエレクトロンは弱っている生体細胞内ソマチットを充電させて蘇生させ、元の健康に導くのです。



生物、特に人間にとって最も重要なことは、遺伝子分子生物学に基づいた免疫学である。AWG免疫の産生は、この遺伝子分子生物学に基づいて研究開発されたもので、新しい免疫の方策を得て理論決定され、実験を繰り返し、認証されたものである。これがAWGスーパー電子による多重免疫産生技術である。これは従来、人類の免疫学上重要で、且つ安全な免疫産生技術として認識されるものと考察する。この技術は、免疫応答細胞が電子を偽抗原ととらえ、多重免疫を大量に産生することが動物実験により認証された。この電子偽抗原方式は、人類の疾病の予防と治療双方に効力を発揮する「電子ワクチン」に成り得る可能性を秘めている。この免疫は生体コストが掛からず、生産に係るエネルギーや経済的コストも掛からない安価な臨床予防治療法として認識されるものと思慮する。このAWG電子ワクチンは、従来のジェンナーの開発した種痘、パスツールが開発したコレラ・炭疽病・狂犬病に対する弱毒性ワクチン、北里柴三郎・ペーリングが開発した破傷風やジフテリアの血清療法などに匹敵する安全・安価で重要なワクチンになり得る。また、今まで不可能とされてきたアレルギー反応や移植臓器の拒絶反応などに対しても有効な治療・予防方法としての可能性が展望出来るようになってきた。

■AWG電子の細胞内修理

特徴/AWGスーパー電子はレセプター蛋白質分子チロシナーゼ(PRTK)レセプターに受容され、酵素関連・酵素結合レセプターを介し、細胞の末端の隅々のPRTKファミリー分子系の細部まで伝達される。この分子系の最終段階でホスハチヂルイノシールが電子を受容し、病的細胞組織内の損傷・欠損部の修復をはかる。このホスハチヂルイノシールが細胞レベルで病巣部を治療させる「修理屋」の役目を果たす。また、このスーパー電子は上記のように細胞質細部まで到達し、蛋白質質を矯正し、サイトカイン・シグナル伝達経路に作用し、インターフェロンやインターロイキンを分泌する。また形質転換増殖因子を分泌し、チロシナーゼなどの分泌を促し、細胞レベルで損傷部や欠損部の患部を補修する。



世界のドクターの推薦。

ここ日本では、まだまだ知られていないAWG。

他国においても、一般に浸透しているとはまだまだ言えませんが、

今、諸外国の“プロの世界”である学者の間では、AWGの驚異的な実力が続々と認められてきています。

JAPAN MADEを強く意識しているAWGですが、ひょっとすると他国においての普及の方が早いかもしれません。

我が国では、西洋医学と東洋医学の静かなる闘いが進行中です。

対症療法的アプローチでは、痛みを緩和することしかできない。免疫療法や漢方では、十分な臨床結果がない。

…… 論争は絶えません。

どちらかが勝利するまで徹底的に戦うほど、医療界は愚かだとは思いませんが、危険だなあと思います。

何故なら、そういった論争時には、自分の意見に固執するだけのエネルギーしか働いていないことがあるからです。

病に苦しむ方を治したいという、もともとあった気持ちがいつの間になくなってしまうのです。

だから、常識ある医師は、実は今、苦しんでいるのです。

ウィルスがどんどん耐性を持ち、過去の知識、知恵からは、どうにもならないことが急激に増えているからです。

激論を交わすこと。それは、自らの仕事に対してお互い様に真剣だからこそ、起きてしまう現象です。

そんな方々にこそ、このAWGを知って欲しい。切にそう願います。

AWG事業協力者

ハンソ大学総長 Kee Sun Ham 医学博士(美容・整形外科医)



Now start your college life at Hanceo University looking ahead to the day when you can be leading the world of our future. A young and dynamic university, Hanceo develops day by day, nurturing future oriented disciplines including aeronautics and the arts. Aeronautics and the Arts are two areas to which Hanceo University gives special attention. We would like to welcome you who will open the curtain of this beautiful future world with us.

President Ph.D. **Kee Sun, Ham**

행기선

エレクトロニクスで病魔に挑戦する

国際統合医学会会長 医学博士 高原 喜八郎(東大)



LEFT :

グローバルピース大学名誉教授・理事
ハンソ大学名誉教授
エイブン教育財団名誉理事
医学博士 松浦優之
PSDウィルス研究所所長

RIGHT :

日本国代表的臨床医師
国際統合医学会会長
医学博士 高原 喜八郎(東大)
現・東京・高原コウゲンクリニック院長

推薦者の言葉

ハワイ州立大学名誉教授 吉川 宗男 博士



有史以前から、ウィルス・バクテリア・寄生虫等の感染により、人類はその反復する攻撃に対し莫大な研究開発費を投入して医薬品の製造を行ってきました。しかし今ウィルスやバクテリアは薬品に耐性し、医療の最前線で医師達は「抗生物質が効かない」ジレンマに手を焼いています。

WHOは、「21世紀は人類とウィルスの戦いになる」と宣言し、エマージングウィルス対策にやっきになっています。

麻やエイズ・マラリア・結核・MU-3などが猛威をふるい始め、人畜共通伝染病だけでなく、その他、種固有の疾病もその種の垣根を突き破り、鳥インフルエンザ・エボラやSARSなどがその種を越境し、人類に逆襲し始めています。

すべての感染症はウィルス・バクテリア・真菌・寄生虫が主な原因とされているといわれています。全世界を恐怖に陥れているテロはこのウィルスを兵器として、天然痘やペスト・野兎ウィルス・炭疽などを使用しようと計画していると伝えられています。また、これらの菌をベースにキメラウィルスという人工的にDNAを交雑した今までにない強力なウィルスや菌の製造を行っているとも伝えられています。

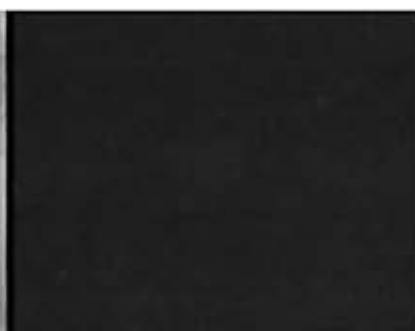
以上、このようなウィルスの対抗処置として、25年間という長い年月を掛け、血のにじむ苦しみを通して完成され世界特許を取得した松浦優之博士の執念で完成させたデュマイン機械は、将来人類福祉にとって尊い価値ある医療の選択肢の一つとして、大変重要な貢献をするものと期待しています。

世界有名大学校表彰状



松浦博士のAWG研究の記録



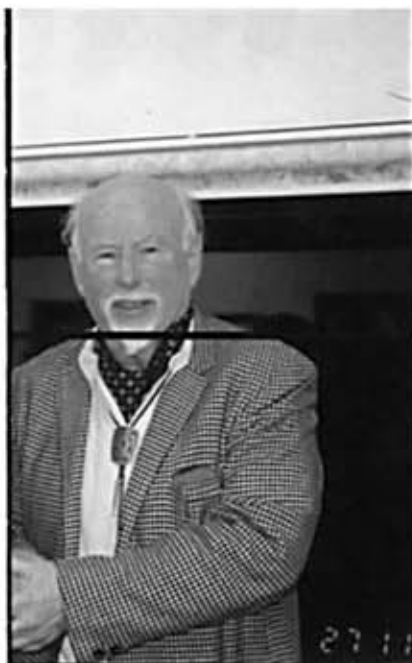


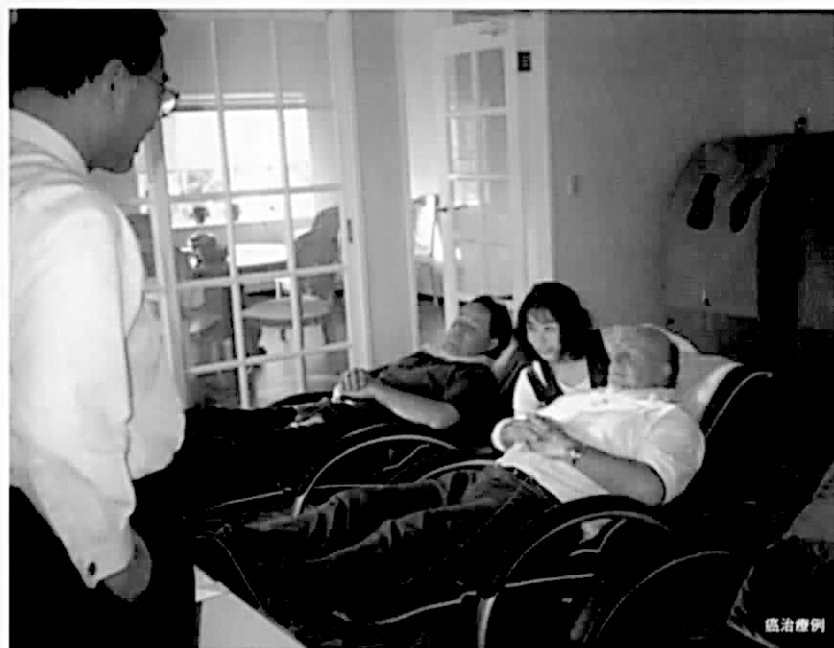
世界におけるAWG。

WHOは「21世紀は人類とウイルスの戦いになる」と宣言しました。
癌やエイズなどの猛威は言うまでもなく、結核などの、耐性を持ち、強さを増し続けるウイルス。
その他、種の垣根を突き破り、人類に逆襲する鳥インフルエンザや豚インフルエンザ等の野生動物のウイルス。
さらには、キメラウイルスという人工的にDNA交雑をしたウイルスの製造が行なわれているということも伝え聞きます。
今後は、テロ兵器などにもウイルスが使われていくかもしれません。
そんなウイルスに対し、世界の医師たちは「抗生物質があまりにも効かない」という無力感にさいなまれています。

これらウイルスを殺滅出来る技術。それがAWGです。
AWG素粒子療法スーパー電子(レプトン)が、これを可能とするのです。
AWGスーパー電子ワクチンという、病原性は全くなく、抗原性のみを促進する理想的なワクチンも完成しています。
アメリカ、ロシア、中国、EU等で特許を取得し、すでに世界が認め始めています。
一日も早く、あまねくにAWGが広がることを、開発者としてだけではなく、人類の一員として祈っています。







臨治事例

AWG

WORLD PAT. MD GENERATOR

APPROVED

WORLD 138 COUNTRIES PATENT PENDING

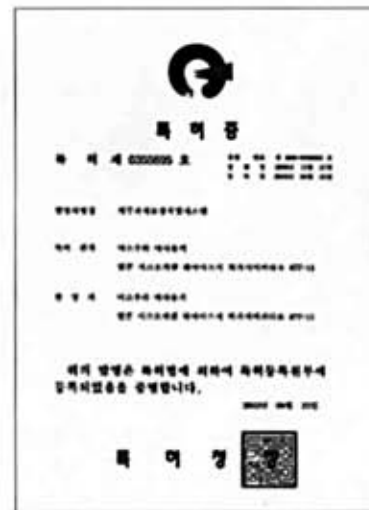
PATENT LETTERS



1936年、静岡県に生まれる。1959年、麻布獣医科大学獣医学部卒業後、カナダゲルフ獣医大学に留学。1975年、当時世界最大級のバイオテクノロジー会社[シーメックス・カナダ社]において〈哺乳動物のクローン生産技術〉を学ぶ。哺乳動物の受精卵を分割した際、人工授精や移植を実施しても、そのうち数%の確率で流産するという現象が発生する。その原因がウィルス・バクテリアの介在であると考え、これを抗生物質のよう

な耐性菌が発生する医薬品ではなく、物理的に壊す方法を研究し、1～10,000Hzの中からウィルスのクリスタルゴブレットを破壊する69種類のスーパー電子Hzを発見した。この69種類のHzは、生体内細胞組織に対し何らの悪影響を与えることなく、生体内細胞組織中のウィルス・バクテリアのみを殺滅し、又、感染細胞のDNA・RNA損傷部1鎖及び2鎖も切断し、人為的アポトーシス(細胞死)を起こさせることを突き止めた。その後、幾多の臨床実験を重ね、

38年の歳月を掛け、世界138ヶ国に特許申請し、アメリカ・ロシア・中国・EU・EA・韓国・カナダ・香港等で特許を取得した。現在、医師を中心としたAWG学術研究会を発足させ、慢性重篤な罹病者などの臨床データ及びメカニズムの追求を行なっている。このAWGの新しい医術を多くの第一線で働く臨床医師たちに、未来臨床の医学の選択肢の一つとして、人類の福祉に役立てて欲しいと望んでいる。



- アメリカ・カナダ・ロシア・中国・EU・韓国・台湾・香港・メキシコ・シンガポール・インドネシア・EA他特許取得
- 日本国厚生労働省認可、JIS-C6310取得 (医療器具)
- 世界各国認可



AWG (Arbitrary Waveform Generator) は疾病を細胞分子レベルから矯正する新しい技術です。患者に注射や手術などの苦痛や抗菌剤、抗ガン剤等の吐き気や嘔吐の副作用及び放射線、コバルト等の脱毛・脱力等を与えない理想的医療を目指すAWGの技術は、これから始まる「人類とウィルスの戦い」の最終的切り札になるものと信じます。

ITは0-1の組合せ、遺伝子DNA設計図はA・T・C・Gの4文字の組合せで、何億もの情報を網羅しています。AWGは生体細胞に損傷を与えない69種類の電子(Hz)を厳選して組合せ、この69のヘルツ(Hz)をベースに約400種類の病魔に挑戦し、これを滅殺するように設計されています。またAWGは安全性・有効性・品質を追求し開発に成功した世界初の最も安全な理想的新型治療器です。

AWG療法とは？

- AWGは、Arbitrary Waveform Generator(段階的マイナスイオン電子投射器)の略号です。
- AWG療法は、1971年より米国及び日本の分子生物学者、医師、獣医師、細菌学者の4名がチームを結成し、今日数十年掛けて開発完成させた医療機器である。
- 現在世界特許、米国・ロシア・中国・EUの世界4大大国をはじめ世界12ヶ国で特許を取得し、138ヶ国に特許申請済みの製品である。
- 日本国厚生労働省においても医療機器として認可を取得。
- 現在世界21ヶ国において、病院や医師が臨床試験を行っており、約50数名のAWG賛同医師達がAWG学術研究会を結成し、各種追試を行っている。
- このAWG治療器の有効治療率は94%以上という医師の報告がある。
- 薬を投薬しない、注射もしない、手術もしない、患者に痛みを与えない完全無痛療法である。
- このAWG療法は原因直接療法で副作用や医療ミスも全く無く有効安全性は公認済み。
- 癌・HIV・肝炎・重症筋無力症など重篤な疾病をはじめ約400種類以上の疾病に有効とされ高い評価を受けている。
- AWGはハンドキャリアーでき、いつでもどこでも誰でも簡単に御使用できる。



- AWG療法とは、無痛療法で、直接ダイレクトに病巣部に作用する速効作用があり、副作用・医療ミス等まったくない。
- 脳幹から α 波や β エンドルフィン(モルヒネの200~400倍)を産生させ、疾病を快方に導き、また、オキシトシンホルモン・セロトニン・メラトニン・ドーパミン等の分泌も合わせて産生させ、統合的にヒトの生体を健康に導くよう設計されている。
- ヒトは40歳を過ぎると男女とも精巣・卵巣内の毛細血管の萎縮・退行によって女性ホルモンの分泌異常をきたし、骨粗鬆症が発生する。この抜け出たカルシウムが脳に沈着するとアルツハイマーになり、神経につくとリウマチや神経痛を発し、血管内壁につくと高血圧・心臓病、筋肉に至っては筋肉痛・関節痛・肩こり・腰痛等を発生するに至る。このカルシウムは、プラス陽イオン帯電分子であるので、AGWスーパー電子によって強力マイナス帯電粒子が反応し、これを破壊・排除し、疾病は殺滅できる。
- ヒトが疾病に感染すると、血液のpHは徐々に酸性化し、重篤に至るとpHは6.8に近づき、6.8に至ると人間をはじめすべての哺乳動物は死滅すると言われている。AWGを罹病者に投射すると罹病者のアシドーシス化した血液pHは7.4に徐々に移行し、健康な血液pHを維持するようになる。

御用の節はお気軽にお問い合わせ下さいませ。

01 即効性

痛みのもとに直接関与するので即効性があります。

02 変化する 周波数

痛みの違いによって、その患部の細胞の微振動に働きかける周波数を選んで一定の時間電子を通します。(PAT.P)

03 痛くない

周波数が方形波なので、刺激はありますが刺すような痛みとは無縁です。

04 簡単入力

コード番号を入力してスタートスイッチを押すだけの簡単設計です。施術時間も番号毎に自動設定。(約10~40分)

05 電気代は 月々18.6円

1ヶ月あたりの電気代は、わずか18.6円。安心の省電力設計です。(1日1時間使用:当社調べ)

06 リモコン付

離れていても便利なリモコン付。